

○ 三八地域は県内のモモ栽培面積の約6割を占めるモモ産地であるが、当地域のJAモモ専門部では、個々の栽培管理にバラツキがみられ、高品質果実の割合を示す「特秀率」が低いことが課題

○平成24年に光センサー式選果機を導入し、高糖度なモモを「ぴちパ(ぱち)ピーチ」のブランド名で出荷する体制を整備。

○そこで、平成26年から、選果データを活用して個々の園地に応じた技術指導を行い、「作業改善」と「特秀率の向上」を目指した活動を展開

具体的な成果

1. 「作業改善」農家数の増加

■「栽培指標」を活用した講習会等の実施により、年々適切な「摘果作業」等が行われた園地が増加し、部会員の約6割で栽培管理が見直された。

作業改善農家数

H26	→	30	%
H27	→	40	%
H28	→	63	%



夏季の栽培講習会

2. 高品質果実の割合である「特秀率」の向上

■主力の「川中島白桃」の「特秀率」は、平成26年の28%から平成27年には39%に向上した。



作業改善園



JA八戸光センサー式選果場

3. 販売数量の増加と2年連続販売額1億円達成

■販売数量は平成26年の約270tから平成28年には約340tに増加した。また、販売額は平成27、28年と県内のJAでは初の2年連続1億円を達成した。

普及指導員の活動

平成26年～28年

1. 「栽培指標」を活用した栽培講習会の開催

■選果データに基づいた優良園実態調査を行い、「栽培指標」を作成

2. 先進地視察研修、優良園視察検討会及び剪定技術講習会の開催

■専門部員の優良園視察では、栽培管理の検討会を実施

3. 優良園地、下位等級生産園地の実態調査と特徴及び改善点の情報提供

■冬期講習会等で情報提供

4. 指導カードの設置による適正着果量の推進

■適正着果量を記入したカードを設置し、摘果の目安として活用

5. 選果データに基づく冬期講習会の開催と個別指導の実施

■選果データを活用し、個別改善点の指導を実施

普及指導員だからできたこと

1. 日頃から地域の農業者やJA担当者との連携が密であるため、調査研究を確実に進めながら、地域に適した栽培指標の確立や作業改善の推進を順調に進めることができた。

2. 現地での突発的な課題に、機動的に活動でき、関係機関と連携・調整しながら迅速な対応ができた。

選果データを活用したモモ高品質安定生産の推進

活動期間：平成 26 年度～平成 28 年度

1. 取組の背景

指導対象とした「JA 八戸果樹総合部会モモ専門部」（以下、モモ専門部）は部会員 51 名であり、今後も新規会員の増加や新植及び成園化に伴い、生産量の増加が見込まれた。

一方、これまで定期的な講習会の開催等で基本技術の浸透を図ってきたものの、まだ個々の栽培管理にバラツキがみられることや、部会事業への参加率が低い部会員もあり、高品質果実の割合を示す「特秀率」が低い状況にあった。

また、平成 24 年度に補助事業を活用して光センサー式選果機を導入しており、高糖度なモモを「びち八°（ぱち）ピーチ」のブランド名として出荷する体制が整えられた。

そこで、平成 26 年から、選果データを活用して、個々の園地に応じた個別の技術指導を行い、「作業改善」と「特秀率の向上」を目指す活動を展開した。



JA 八戸光センサー式選果場

2. 活動内容（詳細）

（1）関係機関との連携

JA 八戸モモ担当者との年間指導計画に基づき、連携を密にしながら一般的な生産指導を実施した。また、JA 八戸、全農あおもり及び農業普及振興室間で定期的な情報交換の場を設けたほか、農業革新支援専門員から随時他先進地等の情報提供を受け、防除暦の作成や突発的な病害虫の発生等には、りんご研究所と連携して対策を講じた。

（2）年間の活動内容

1) 「栽培指標」を活用した栽培講習会の開催

選果データに基づいた優良園実態調査を行って、「栽培指標」を作成し、栽培講習会等で活用するとともに、毎年見直しを行い、改善点を追加した。

2) 先進地視察研修、優良園視察検討会及び剪定技術講習会の開催

毎年、先進地の栽培状況やモモ専門部員の優良園を視察し、栽培管理法を検討した。剪定技術講習会では優良園生産者の剪定実技により、技術の高位平準化を推進した。



夏季の栽培講習会

- 3) 優良園地、下位等級生産園地の実態調査と特徴及び改善点の情報提供
樹勢や着果量などの実態調査の内容と特徴及び改善点を冬期講習会等で説明し、個々の園地の改善に向け、参考となるよう情報提供を行った。
- 4) 「指導カード」の設置による適正着果量の推進
下位等級生産園地等に適正着果量を記入したカードを標準木に設置し、摘果の目安として活用した。
- 5) 選果データに基づく冬期講習会の開催と個別指導の実施
選果データを活用し、個別に改善点の指導を実施した。
- 6) 生産販売検討会の開催
年度末の3月に本年の生産販売経過を検討し、次年度の生産・販売に向けた具体的な対応について協議した。



先進地視察研修



「選果データ」を活用した学習会

3. 具体的な成果（詳細）

年々適切に摘果作業等が行われた園地が増加するなど、部会員の約6割で栽培管理が見直されたほか、栽培講習会には約8割の生産者が出席し、高品質栽培への関心が高まった。また、「指導カード」の設置は、「摘果の目安になった」との好反応があった。

販売数量は平成26年の約270tから平成28年には約340tに増加するとともに、「川中島白桃」の「特秀率」は平成27年に39%（平成26年28%、平成28年は8月下旬の台風の影響で21%）に向上した。また、販売額は平成27、28年と県内のJAでは初の2年連続1億円を達成した。

4. 農家等からの評価・コメント（モモ専門部長 赤石 裕 氏）

販売額1億円達成を通過点として、高品質・安定生産を心がけ出荷量の増加を目指し、ブランド化を推進したい。今後も普及指導員からの生産技術指導やモモ専門部の活動等について意見・助言等をお願いしたい。

5. 普及指導員のコメント（三八地域県民局地域農林水産部・主幹・久保隆）

光センサー式選果機の導入により、農業者や関係者の高品質・安定生産への意識が高まり、ブランド化に向けた一歩を踏み出せた。モモ専門部の活動は活発であり、意欲が高く先進的な農業者も多い。今後ともブランド化を推進するため関係機関と共に支援を継続する。

6. 現状・今後の展開等

今後も「栽培指標の改良版」を用い、栽培管理指導を進めるとともに、低等級生産園地の高品質化に取り組み、全体の底上げを図りながら「栽培管理の適正化」と「特秀率」のさらなる向上を目指し、「びち八（ぱち）ピーチ」のブランド化を推進する。